

同じ人間として

中 三

私には、二歳年上の兄がいる。兄は小学校の頃から体が不自由な子や障害のある子が入る学級に入っている。小さい頃、私と兄は、仲が良く、よく遊んでいた。けれど今は、兄は地元から離れた高校に通っており、部活をしているため家が出るのが早く、帰ってくるのも遅い。そのため、会話することがめっきり減ってしまった。

そんな兄は、小学校の頃、障害のある子供達に通う施設に通っていた。私は小さかったので一人で留守番をするわけにもいかず、私と兄と母の三人でよく行っていた。そこで、さまざまな障害のあるたくさんの人達に出会った。車いすに乗った人や上手にしゃべれない人が先生と一緒に勉強したり、遊んだりしていた。施設では、いくつかのグループに分かれて勉強などをするときもあったが、個別でやるときもあった。ある日、いつものように施設に行った。グループ活動を行っている

と、兄と同じ年で心に障害のある男の子と私より一つ年下の男の子とその妹の四人で、施設の外にある遊具で遊んだ。その妹は、障害はなく、明るく活発な子だった。その子と遊ぶのが施設に行く楽しみになった。正直、それまでは、私は施設に行くのが好きではなかった。みんな、どこかに障害があり、かわいそうだと思い、話すのに気を遣うので、面倒くさいと思っていた。その話をその子にすると、少し悲しい表情になった。しばらくしてその子はこのことを言った。しばらく

「じゃあ、自分の兄にも気を遣っているの。」
「別に、障害があっても兄であることに変わりはないでしょ。」

目が覚めた感じがした。何を気にしていたのだろう。障害のある人達や兄にまで、私は、自分との間に無意識に壁を作っていたのだと思った。

これ以降、私は、兄や障害のある人に対する考えが変わった。かわいそうとみていた視点を同じ人間として、たくさんの良い所をみつけるように変えた。施設に行く日が待ち遠しくなっていた。私達は、障害のある人を見ると、かつての私の

ように、かわいそうと思い、壁を作ってしまったことがある。これは、直接相手に何かをしたり、言ったりしているわけではないけれど、そのような考えが差別につながると思う。障害のある人であるとなかろうと、自分と違うという意識や特別扱いするのではなく、同じ人間として接するべきだと思う。現在、バリアフリーの世の中で、ノンステップバスなどの設備が整えられている中、私達の考えがまだまだ伴っていないと思う。まずは、同情という壁をなくし、一人の人間として、尊重することが大切である。

